

# 岩手県沿岸部における民俗芸能の復興支援活動

見市建

## 1. 背景と目的

東日本大震災に伴う津波によって、地域に根差した岩手県沿岸部の民俗芸能もまた大きな被害を受けた。被災状況については、かねてから民俗芸能に関心を寄せてきた盛岡大学の橋本裕之教授らがわずか数人で調査し、日本財団など外部からの支援を仲介した。他方で、民俗芸能の諸団体は震災から立ちあがろうとするさまざまな地域行事や他地域のイベントに呼ばれ、鎮魂や清め、招福の舞を披露した。

本研究代表者は、政治学を専攻し、東南アジアの宗教と文化を研究する立場から、橋本教授や中川真教授（大阪市立大学）らの研究グループに参加し、支援活動の側面サポートをしつつ、背景となる地域社会の変化や復興支援に伴う権力関係をつぶさに観察している。また全国的あるいは世界的にみても稀な岩手県の民俗芸能を日本の他地域や海外の人々に知ってもらうことにより、お互いの学びの場を作ることを目指している。

## 2. 成果と展望

上記研究グループは普代村の鶴鳥神楽の大阪と神戸における公演を実現、関西で喝采を浴びた。個人的には、国際交流基金が東南アジアから招聘したムスリム知識人たちによる沿岸部への研修を企画し、2011年11月に宮古市田老の末前神楽を訪問した。神楽を鑑賞するとともに、震災当時の話を伺い、双方の文化や宗教について意見交換をした。東南アジアで同じく地域に根差した活動をしている東南アジアの民俗芸能との交流というアイデアも生まれた。

現在は2012年9月にジャカルタで開催される日本祭において岩手の民俗芸能を紹介するビデオ制作を行っている。また民俗芸能の記録と情報発信を目的としたアーカイブやそれを観光振興と結びつけるためのウェブサイトの構築を計画している。

海外の宗教や文化への理解を深めながら、身近な民俗芸能を振り返る教育機会の創出も行っている。「海外地域研究」の授業の一環として日本の宗教や文化を対比して考える機会を作り、ドキュメンタリー映画『究竟の地—岩崎鬼剣舞の一年』の公開上映会を開いた。今後も多角的な側面から民俗芸能の継承と発展のサポートをしていきたい。



写真1. 末前神楽と東南アジアムスリム知識人との会合の様子

見市 建

(みいち けん)

総合政策学部准教授

専門：比較政治学

東南アジア地域研究

